

表2 感染経路別予防策の概略

	標準予防策	空気予防策	飛沫予防策	接触予防策
感染媒体	<ul style="list-style-type: none"> <li>血液、体液</li> <li>分泌物、排泄物</li> <li>創のある皮膚、粘膜</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5µm以下の飛沫核粒子</li> <li>空気の流れにより飛散する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5µmを越える飛沫粒子</li> <li>微生物を含む飛沫が短い距離(1m以内)を飛び</li> <li>飛沫は床に落ちる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接接触感染</li> <li>直接接触して伝播</li> <li>皮膚同士の接触</li> <li>患者ケア時など</li> <li>間接触感染</li> <li>汚染された器具や環境などを介し</li> </ul>
主な疾患及び微生物	感染症の有無に関わらず全ての患者に適応される	結核、麻疹、水痘	インフルエンザ、流行性耳下腺炎、風疹など	腸管出血性大腸菌、MRSA、 <i>C. difficile</i> 、緑膿
手洗い*	<ul style="list-style-type: none"> <li>血液、体液、創のある皮膚、粘膜に接触後</li> <li>手袋をはずした後</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>患者接触時、汚染表面接触時に手洗い</li> </ul>
手袋	<ul style="list-style-type: none"> <li>血液、体液、分泌物、排泄物、創のある皮膚、粘膜に接触時</li> <li>使用後、すみやかに外し、手洗い</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>患者ケア時手袋を着用</li> <li>汚染物に触った後は交換</li> <li>部屋を出る前に外し、手洗い</li> </ul>
マスク ゴーグル	<ul style="list-style-type: none"> <li>血液や体液が飛散し、目、鼻、口を汚染する可能性がある場合</li> </ul>	部屋にはいるときにタイプN95マスクを着用	1m以内で働くときマスクを着用	
ガウン	<ul style="list-style-type: none"> <li>血液、体液、分泌物、排泄物で衣服が汚染する可能性がある場合</li> <li>汚染されたガウンは直ちに脱ぎ手洗いを要する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>患者、環境表面、物品と接触する可能性がある場合</li> <li>部屋に入るとき着用し、退室前に脱ぎ捨てる</li> </ul>
器具	<ul style="list-style-type: none"> <li>汚染した器具は、粘膜、衣服、環境などを汚染しないように注意深く操作</li> <li>再使用するものは清潔であることを</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>できる限り専用とする</li> <li>専用でない場合は他患者に使用前に消毒</li> </ul>
リネン	汚染されたリネンは、粘膜、衣服、他の患者や環境を汚染しないように扱う			
患者配置	環境を汚染させる恐れのある患者は個室隔離	個室隔離 部屋の条件 1) 陰圧 2) 6回/時以上の換気 3) 院外(HEPAフィルター)排	個室隔離あるいは集団隔離の場合はベッドを2m離す	個室隔離あるいは集団隔離あるいは患者の排菌状態や疫学統計に基づき対応を考慮
患者移送		<ul style="list-style-type: none"> <li>制限する</li> <li>部屋から出る場合にはサージカルマスクを着用させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制限する</li> <li>部屋から出る場合にはマスクを着用させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制限する</li> </ul>

\*流水と石鹸がすぐに利用できない場合は、アルコールをベースとした速乾式手指消毒薬を用いてもよい。